

株主・投資家の皆様へ

100th
ANNIVERSARY
since 1922

幸せを、進化させる。

yokowo

第85期 中間株主通信

2022.4.1～9.30

株式会社 **ヨコオ**

(証券コード：6800)

株主の皆様へ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社をとりまく経営環境は、世界的に新型コロナウイルス感染症の変異株による拡大・収束の波が繰り返されており、日本国内においても再拡大の様相を見せるなど、依然として先行き不透明かつ不確実な状況が続いております。

このような環境下において、当社主要市場である自動車／半導体検査／携帯通信端末／先端医療機器の各市場は、足元では世界的な半導体不足の影響が徐々に緩和されつつあり、CASE^(※1)／MaaS^(※2)／5G／AI／IoTの普及拡大に伴う大変革期の中で、先進的なアプリケーションが目白押しな状況には変わりありません。

このような状況の中、第85期(2023年3月期)第2四半期連結累計期間(上期)の当社グループの業績は、上期として過去最高の402億7百万円(前年同期比+29.8%)となりました。利益面についても、回路検査用コネクタセグメントの大幅増益などにより、営業利益が35億7百万円(前年同期比+75.1%)、経常利益は円安による為替差益を計上したことなどにより65億3千8百万円(前年同期比+196.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億7千9百万円(前

年同期比+173.7%)と、いずれも上期として過去最高の業績となりました。

通期の業績予想については、回路検査用コネクタセグメントが半導体市場の減速により若干の減収の影響を受ける見込みであるものの、車載通信機器セグメントの大幅な損益改善が見込まれることから、売上高および営業利益以下を上方修正いたしました。これらを受けて、中間配当・期末配当は直近の配当予想から2円ずつ増額して1株当たり25円とし、通期配当予想は1株当たり50円と修正いたしました。

当下期以降は、「新中期経営計画」の締めくくりである最終年度として、企業・事業基盤強化をさらに進めるとともに、車載通信機器セグメントでは事業構造革新と収益体制再建、回路検査用コネクタおよび無線通信機器セグメントではさらなる事業拡大と収益性の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具



代表取締役 執行役員社長

徳間 孝之

※1 CASE:自動車の新しいトレンドであるConnectivity(接続性)/Autonomous(自動運転)/Shared(共有)/Electric(電動化)

※2 MaaS:Mobility as a Service(移動のサービス化)

Purpose / 存在意義

人と技術で、いい会社をつくり、いい社会につなげる。

Vision / 目指す姿

社会ニーズのその先に、人と技術で挑戦し、「新しい」を生み出し続ける進化永続企業。

Values / 価値観

Respect	尊重
Fairness	公正・公平
Ownership	当事者意識
Challenge	挑戦
Innovation	革新

ブランドスローガン

幸せを、進化させる。

100th
ANNIVERSARY
since 1922

ヨコオの事業領域

当社グループの事業領域は、大きく分けて、車載通信機器／回路検査用コネクタ／無線通信機器の3つのセグメントがあります。

精密金属パイプ加工からスタートした当社は、アンテナ技術・マイクロウェーブ技術・表面改質材料技術などさまざまな技術を導入し磨き上げ、アンテナ／コネクタ／先端デバイス製品と事業領域を次々と拡大して、革新的な製品を生み出してきました。

これからも、次世代のエレクトロニクスをいち早くとらえ、最先端の製品を世界に向けて提案・提供し続けることにより、さらなる成長と企業価値向上に努めてまいります。

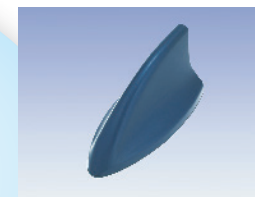
車載通信機器

売上高 **221億6千2百万円**
(前年同期比+17.6%)

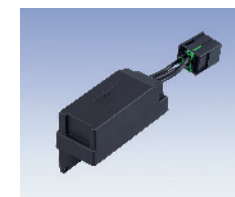


車載アンテナ

車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムを開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。



シャークフィンアンテナ

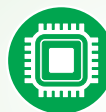


インパネ内蔵アンテナ

yokowo

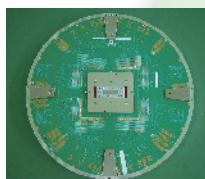
回路検査用コネクタ

売上高 **130億5千4百万円**
(前年同期比+73.1%)



半導体検査用治具

電子部品の回路検査の微細・高速対応ニーズに応えるべく、半導体製造プロセスの前工程から後工程まですべての領域に対し、微細な半導体検査用治具を開発・提供しています。



プローブカード



ICソケット

無線通信機器

売上高 **49億8千9百万円**
(前年同期比+8.8%)



電子機器用コネクタ (ファインコネクタ)

各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細「スプリングコネクタ」をグローバルに開発・提供しています。

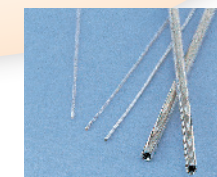


各種スプリングコネクタ



医療用機器 (メディカル・デバイス)

低侵襲治療の実現に貢献するOEMガイドワイヤ、医療用カテーテル微細精密部品の設計から開発・製造まで提供しています。



ガイドワイヤ・カテーテルシャフト用コイル

社長インタビュー

第85期の見通しや中長期的に目指すところについて、徳間社長にお話を伺いました。

—先日の第2四半期決算発表の際に第85期の業績予想を上方修正されましたが、そのポイントについてお聞かせください。

当社はおかげさまで、本年9月1日に創業100周年を迎えました。こうして1世紀を超えることができましたのは、株主の皆様をはじめとしたステークホルダーの皆様方のお力添えの賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、第85期の業績予想は本年8月に一度修正していますが、それに対して、今回11月に修正した業績予想は次のとおりです。

<前回修正予想>		<今回修正予想>	
売上高	760億円	→	800億円
車載	416億円	→	459億円
回路	248億円	→	245億円
無線	96億円	→	96億円
営業利益	70億円	→	74億円

車載通信機器セグメント(VCCS事業)においては、第2四半期で想定以上に損失を縮小することができました。前回のインタビューでもお話ししたように、値上げ交渉・費用負担交渉を行った結果、原材料価格・海上運賃の高騰分を相当程度補える形で決着しつつあります。



一方で、生産拠点を中心としたリストラクチャリングにも取り組んでいます。中国工場では、中国国内向け製品の生産に特化するべく、ベトナム工場への生産移管をさらに拡大するとともに、体制のスリム化を推進しています。それと並行して、ベトナム工場では、本年4月に稼働を開始したフィリピン工場への生産移管を急ピッチで進めています。また、大きな悩みの種であった海上運賃の高止まりが、下期から沈静化してきており、その効果は来年1月頃から出始めるとみています。以上の取り組みや環境変化によって、この下期における当セグメントの損失解消・黒字化がだいぶ手の内に入ってきた感があります。

次に、回路検査用コネクタセグメント(CTC

事業)は、半導体の在庫過剰や顧客の生産調整の影響を受けて下期は一服する見通しであり、売上・利益ともに当初予想から若干引き下げました。それでも、新中期経営計画の売上目標(当セグメントは215億円)は大きく上回る予想です。

半導体の需要は、自動運転/AI/IoT/5Gなどの普及拡大に伴って中長期的に増加していくことが確実とみています。したがって、それに連動する形で半導体検査需要も拡大していくものと考えています。一時的に落ち込む局面はあるかもしれませんが、先々に備えて能力増強を着実に進めるべき時だと思っています。その施策として、10月から富岡工場に近接する地域で分工場の稼働を開始しました。また、来年1月からはベトナム工場が稼働を開始する予定で、能力増強とBCP体制強化の両面からサプライチェーンの重層化に取り組んでいます。

無線通信機器セグメントのファインコネクタ(FC)事業は、スマートフォンの販売が低迷していることに加え、主要顧客が半導体不足などにより生産がままならず当社の受注も今ひとつ、という状況が依然として継続しています。また、メディカル・デバイス(MD)事業は、先端医療領域において、カテーテル用部品やガイドワイヤ・穿刺針などのアセンブリ新製品を中心に、受注は堅調に推移しています。両事業ともに8月

に修正した業績予想時から大きな変化はありませんが、さらなる拡販活動および受注拡大に備えた生産体制の強化は手を緩めず行っていきたいと考えています。

— 今期は、為替相場が急激な円安となりましたが、当社にはどういった影響があるのでしょうか。

当社への為替変動の影響は、全社ベースで見れば売上・利益ともにポジティブな影響を受けることとなります。この第2四半期決算においても、円安は、全セグメントで増収に寄与し、利益面においても営業増益に働いたほか、為替差益を29億円計上するなど、経常利益以下の利益が大幅に増加しました。

しかし、事業別にみると相当異なっていて、**VCCS事業**の営業利益については、円安が進行するとネガティブな影響を受けることとなります。当事業の生産は海外比率が90%以上であるのに対して、販売は、日本国内向けの比率が約30%となっています。その国内向けのビジネスは、円安が進行すると、海外生産拠点の労務費や原材料費などの円貨換算でのコストアップだけをまともに受けてしまうため、利益が大きく押し下げられることとなります。

その半面、**VCCS事業**と正反対の比率である**CTC事業**、および、円安が比較的穏やかにプラ

スに働く無線通信機器セグメント(**FC事業**と**MD事業**)は、利益率が高いこともあって、**VCCS事業**の減益幅を補って余りある増益となりますので、全社の営業利益は増加することとなります。

— 今後の中期的な業績の考え方とESG／SDGsに関する取り組みについて教えてください。

まず、再来年度の2025年3月期(第87期)の業績目標を、以下のとおり修正しました。

< 前回修正予想 >		< 今回修正予想 >	
売上高	865億円	→	880億円
営業利益	104億円	→	106億円
経常利益	100億円	→	100億円
当期純利益	70億円	→	72億円

想定為替レートを140円(前回発表時は120円)とし、直近の自動車市場の回復傾向と半導体市場の需要減退の影響を勘案して上記のとおりに変更していますが、主に**CTC事業**と**MD事業**を拡大させていくことには変わりはありません。**VCCS事業**は事業領域拡大と固定費構造のスリム化の両輪で収益構造の革新を強力に進めていきます。**FC事業**は、新たな市場への進出

も含めたさらなる受注獲得が肝であり、Webマーケティングを軸として拡販に注力していきます。

また、ESG(環境・社会・ガバナンス)／SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みについても、着実に進めています。本年10月には、取締役会決議により「サステナビリティ委員会」を設置しました。私を委員長、執行役員専務および執行役員常務を委員とするメンバー構成ですが、独立社外取締役にもオブザーバーとして参加いただくなど、外部の知見も取り入れながら、経営陣主導で実効性の高い体制を意識して推進していきます。また、同じく10月に、ベトナム工場に太陽光発電システムを設置し、稼働を開始しました。これによりCO₂排出量は445トン／年低減する見込みです。今後も、2030年のCO₂排出量削減目標、そして2050年のカーボンニュートラル実現を目指して、気候変動対策を具体的に推進していきます。

当社は、次の100年においても必要とされる企業になるため、事業活動を通じてサステナビリティ課題に取り組み、グローバル社会の持続可能な発展に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TOPICS トピックス

【回路検査用コネクタセグメント CTC事業】 低抵抗プローブの開発

当社は、半導体検査で使用するプローブの抵抗値を削減する**低抵抗プローブ**を開発しました。構造そのものからプランジャーの先端形状やばね構造までを見直すことで、従来品に比べ約20%の削減が可能となりました。

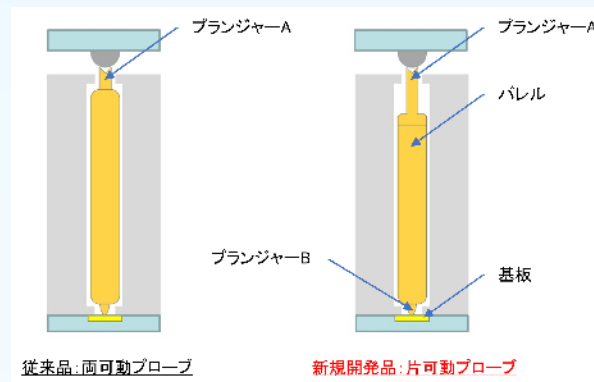
半導体検査で使用される一般的なプローブは、金属製のチューブとばね、それとプランジャーと呼ばれる金属部品がチューブの両端にそれぞれついており、合計4つの部品で構成されています。

両端のプランジャーは、チューブ内部のばねの伸縮により上下に可動する構造になっており、このプランジャーが半導体に直接接触して電気を流すことで検査を行います。

新開発の低抵抗プローブは、プランジャーの可動を片側だけにする片可動プローブを採用することに加えて、ばね荷重を高くすることで抵抗値を大幅に削減しています。さらにそれら既存技術に加え、プランジャーの先端形状とばね構造を最適化することで、プランジャーと基板との抵抗値の削減を図っています。

長年プローブ製造を行い培ってきたノウハウを生かし、既存技術と新規技術を組み合わせ、一つひと

つの部品を丁寧に見直し、微細な技術を積み重ねることで、従来品より約20%削減した低抵抗プローブを開発することができました。



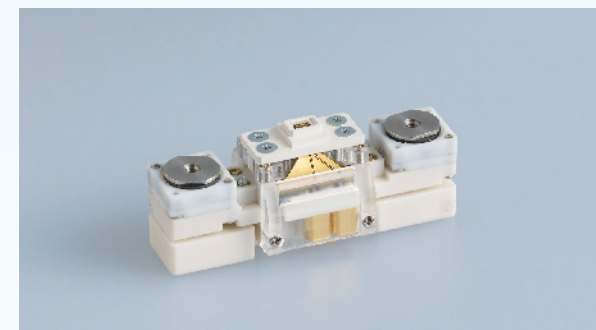
半導体は、年々高度化していることに加え、省電力化も進んでいます。今後、さらなる省電力化が進むと、現在使用しているプローブでは、検査時に電圧低下を引き起こす可能性があることから、低抵抗による検査が求められています。

また通常の検査工程においても、プローブの抵抗値が低いと安定した検査を行うことができるため、低抵抗プローブの技術を他プローブにも応用することで、安定的な検査工程を提供することが可能になります。

当社はこれからも、長年培ってきたコア技術を生かし、今後も高度化する半導体の検査工程において、安定した検査工程を提供できるよう貢献していきます。

【回路検査用コネクタセグメント DS事業】 28GHz帯5Gスマートフォン向けの BtoBコネクタ検査治具を開発

当社は、ヨコオとして初めて、**28GHz帯5Gスマートフォン**などのモバイル端末向けBtoBコネクタ検査治具を開発しました。



▲28GHz帯5Gスマートフォン向け BtoBコネクタ検査治具

電子機器や電子部品を製造するうえで欠かせない検査工程において、製造個数が少ない場合には製品に使われているコネクタをそのまま使用して電気や信号を流す検査を行うことが多いのですが、製造個数が多かったり検査回数が多かったりするときは、容易に検査を行えるように専用の電気検査治具が用いられる場合があります。

今回、ヨコオとして初めて開発した**28GHz帯5Gスマートフォン向け**のBtoBコネクタ検査治具

(RF-FPC™)は、電子基板に取り付けられたコネクタに接続して検査を行う治具です。

従来品は、基板やコードの先にプローブを取り付け、そのプローブをコネクタなどの検査対象物に接触させて検査する部品構成をしていましたが、新規開発品は、それらの部品をFPC一つにすることで、信号のロスを大幅に削減することに成功しました。そして、FPCの先端部分にスリットを入れることにより、コネクタなどの電極端子の凹凸にも追従しやすくなり、耐久性も大幅に高める事に成功しました。

また、従来品はプローブを利用してインピーダンス特性を得るため、治具本体は金属で作る必要がありましたが、本製品は、インピーダンス特性はFPCに、プローブはFPCをコネクタなどの電極端子に押し付けるためだけに使用するため、本体を樹脂にすることが可能となっています。これにより、本体の設計自由度が増したことで、より小さい製品の検査にも対応することが可能になりました。

当社は、1979年に半導体検査事業(CTC事業)をスタートさせ、その技術を応用して1996年から電気検査市場向けの治具の通信販売(DS事業)を行っています。

今回、ヨコオとして初めて28GHz帯の検査治具を開発しましたが、今後も研究開発を継続し、その他の高周波向け検査治具製品のラインナップを増やすことで、高周波検査治具市場に貢献していきます。

ESGの取り組み

地域社会への貢献活動・取り組み

当社グループは、地域社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を推進しています。地域の発展を支える活動や、社会が抱える課題の解決に寄与する取り組みを通じて、地域社会とともに発展していくことを目指しています。

このたび地域社会との対話と発展への貢献を着実に実行するために、2022年4月に社会活動推進課を総務部内に設置しました。併せて地域社会貢献活動方針を策定し、まずは富岡市・群馬県を中心に行政と連携して活動を推進しています。

地域・社会貢献活動方針

地域の皆様の声に耳を傾け、多様な課題に対し、パートナーとして認められるよう誠実に取り組み、地域・社会の幸せに貢献していく。

地域に根差した活動として、2022年9月に、当社がネーミングライツ契約を締結している富岡市の市民球場「Yokowoシルクスタジアム富岡」にて、地元の野球連盟と共同で野球イベントを開催しました。

小学校低学年までの初心者でも楽しめるティーボールを中心に、参加した子どもたちは一生懸命に体を動かし、伸び伸びとプレーを楽しんでいました。



また、2022年10月には富岡市の陸上競技場「Yokowoシルクアスレチックスタジアム富岡」にて、地域住民や従業員の子どもの対象としたサッカーイベントを開催しました。

幼稚園年中～小学校低学年までの約80人の子どもたちがサッカー教室やミニゲームに参加し、指導者の話を熱心に聞きながら元気よく体を動かしました。

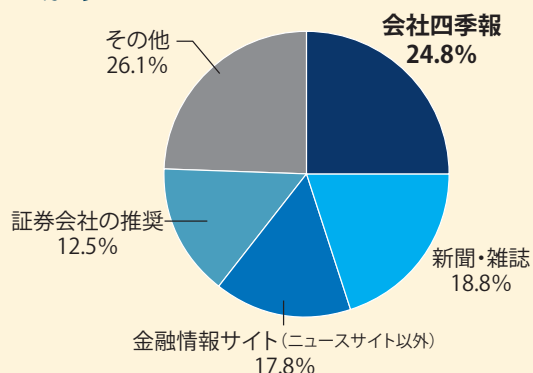


当社グループは今後も、地域社会の皆様との関係を大切にしながら、多面的な社会貢献活動を推進するとともに、地域に根差した企業として、地域社会の発展と、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

アンケート実施報告

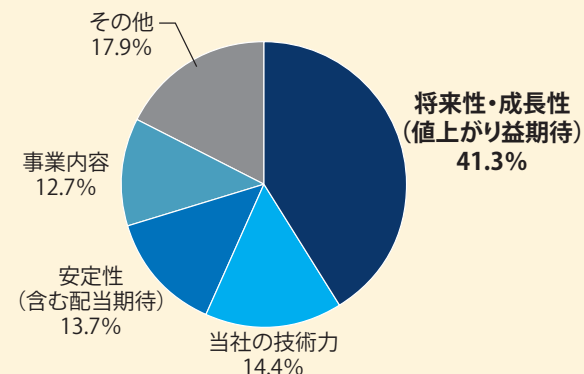
2022年3月末時点の株主様を対象に、ハガキによるアンケート調査を実施しましたところ、911名の株主様からご回答をいただきました。その集計結果と、頂戴したご意見の中から一部をご紹介します。

Q1 知ったきっかけ



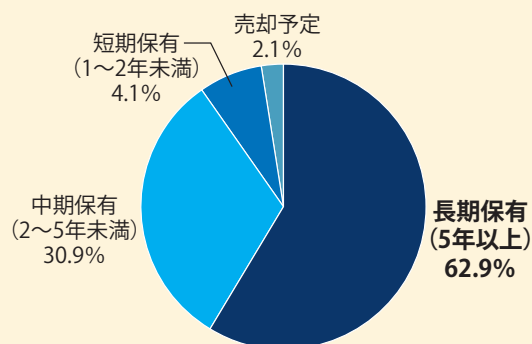
「Q1.当社株式をお知りになるきっかけとなったものは何ですか」に対しては、「四季報・会社情報」が24.8%でもっとも多く、「新聞・雑誌」の18.8%がこれに続きました。

Q2 購入理由



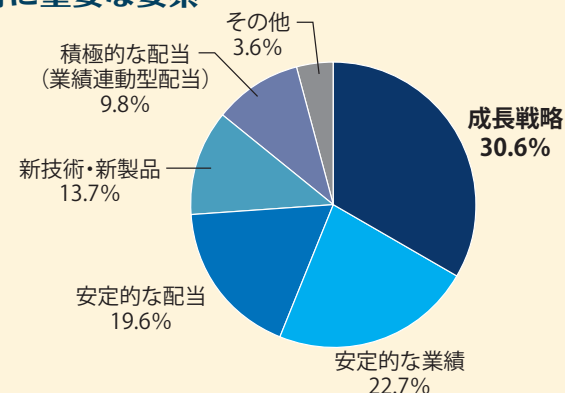
「Q2.当社株式をご購入された理由をお聞かせください」に対しては、「将来性・成長性(値上がり益期待)」が41.3%でもっとも多く、「当社の技術力」が14.4%でこれに次ぎ、さらに「安定性(含む配当期待)」「事業内容」等が続きました。

Q3 保有方針



「Q3.保有方針」に対しては、「長期保有(5年以上)」が62.9%でもっとも多く、「中期保有(2～5年未満)」が30.9%でこれに続きました。

Q4 長期保有に重要な要素



「Q4.当社株式を長期保有するためにもっとも重要な要素は何ですか」に対しては、「成長戦略」が30.6%でもっとも多く、「安定的な業績」が22.7%でこれに続きました。

以上の他にも、当社への要望・期待・叱咤・激励のお言葉など、数多くのお声を頂戴いたしました。アンケートにご協力くださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。当社に対する理解を深めていただけるよう、今後も皆様のご意見を株主通信の誌面づくりに生かしてまいります。

株主の皆様からのご意見を紹介いたします（一部抜粋）

収益も順調に伸び、さらに配当や特別配当があれば何よりです。

滋賀県 60代

「製品の源流」に興味深く読ませていただきました。気付かない所で御社の製品にお世話になっていたのですね。

埼玉県 60代

IRニュースメールの登録を行ないました。貴社の買い増しの参考にしたいと思います。

新潟県 60代

ヨコオさんの株主通信はとても読み易く、いつも楽しみにしています。SDGsへの取り組み、企業理念に共感しております。
社長インタビューにある、高い目標、そしてそれに対する熱い気持ちが伝わってきました。父から相続した株です。これからも大切にもちつづけたいです。

東京都 40代

株主通信は活字の濃さ大きさが丁度良く読み易いです。毎号社長様からのステキなお心が伝わってまいります。

神奈川県 70代

100年も続くのはすばらしい。努力の賜物 今後も期待してます。

新潟県 50代

新企業理念体系は、すばらしいと思いました。これからも地元企業として頑張してほしい。

群馬県 70代

今後も地球環境に負荷にならない企業活動をお願いします。

大阪府 70代

創業百周年おめでとうございます。横尾創業者の精神を引き継ぎ、更なる発展を望みます。

埼玉県 70代

SDGsの取組は立派だと思います。貴社のますますの発展をお祈り致します。

群馬県 60代

他社に比べて文字が大きいので見やすく御社の優しさを痛感しました!!
応援しています。

東京都 50代

自分は、時計屋なのでバネ棒とロッドアンテナの話はなるほどです!

千葉県 60代

5G、半導体関連に大いに期待しています。

岩手県 40代

新種の医療機器等の製造に力を入れて製品として出荷してほしい。

福岡県 80代

移動体の通信技術のある御社の成長を期待しています。

東京都 40代

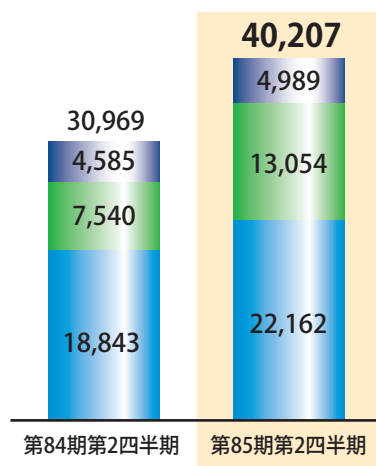
業績・株価推移

第85期第2四半期連結累計期間の業績

売上高

(単位: 百万円)

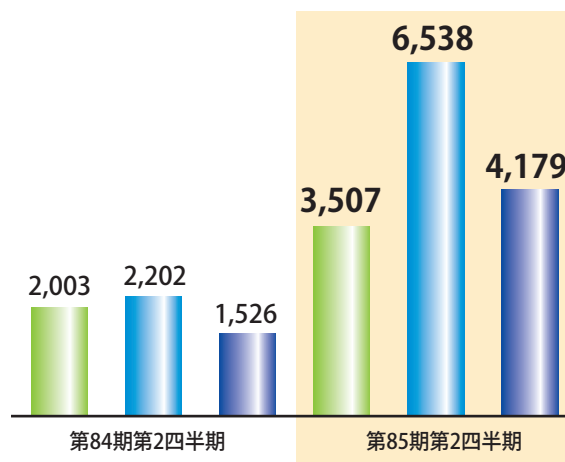
■ 車載通信機器 ■ 回路検査用コネクタ ■ 無線通信機器



営業利益／経常利益／ 親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位: 百万円)

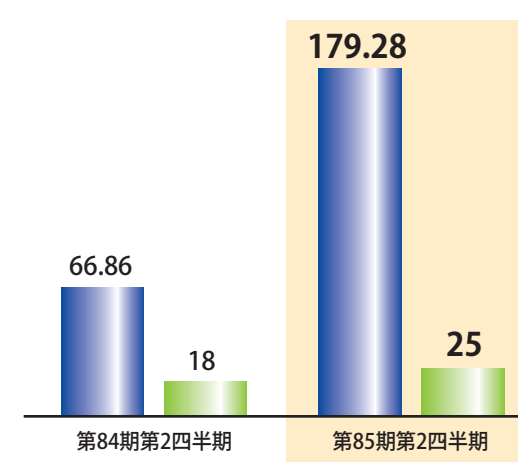
■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する四半期純利益



1株当たり四半期純利益／中間配当金

(単位: 円)

■ 1株当たり四半期純利益 ■ 中間配当金



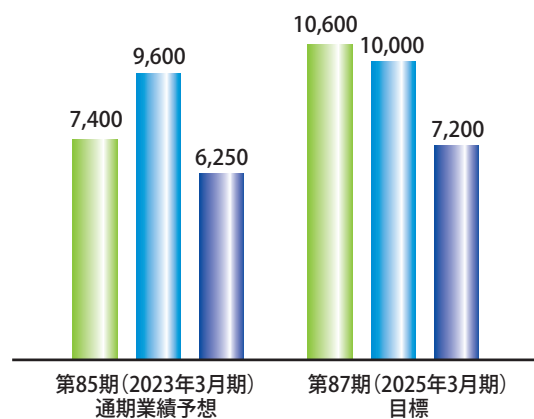
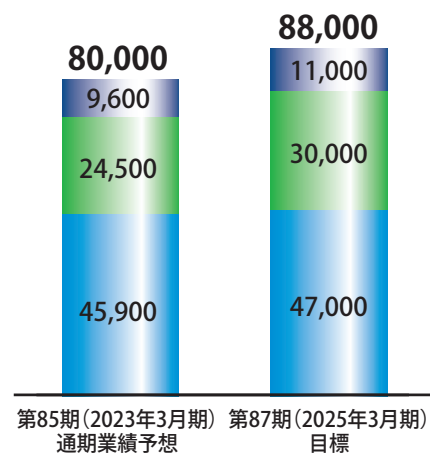
第85期通期業績予想／第87期中期経営目標

(単位: 百万円)

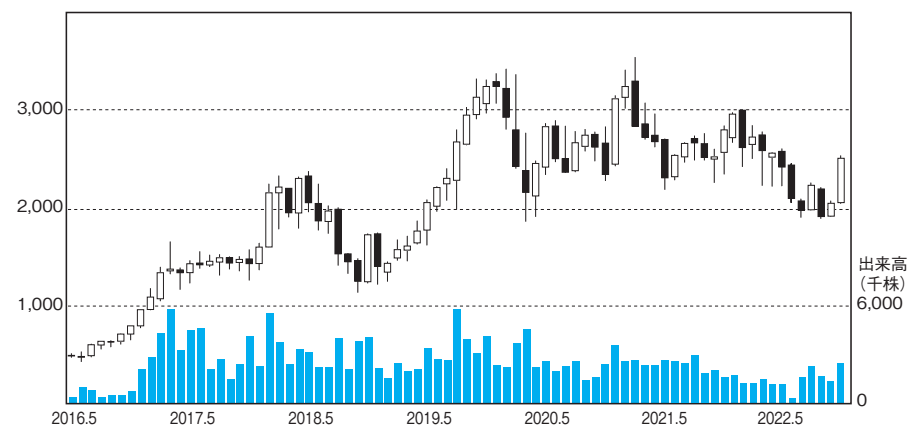
■ 車載通信機器 ■ 回路検査用コネクタ ■ 無線通信機器

■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益

株価(円)
4,000



株価の推移



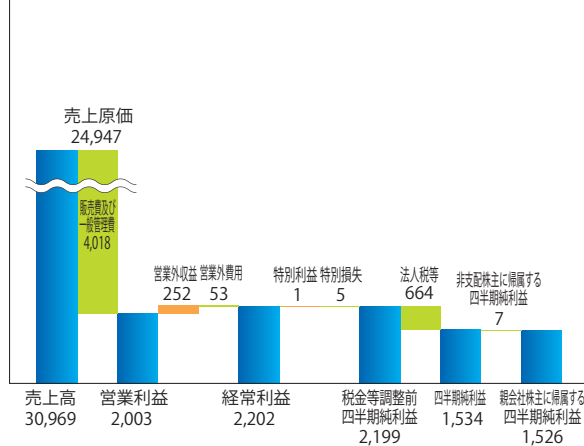
連結財務諸表(要旨)

損益計算書より

(単位:百万円)

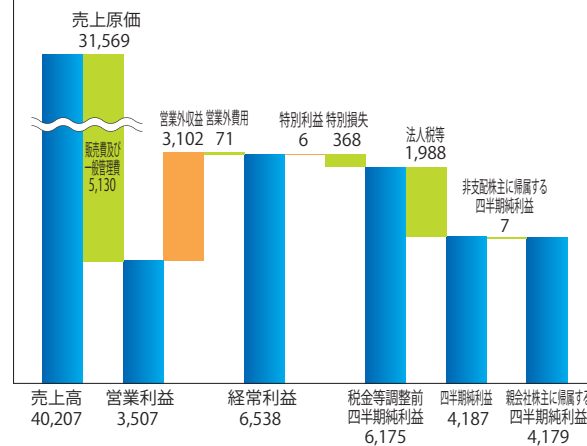
前第2四半期連結累計期間

(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)



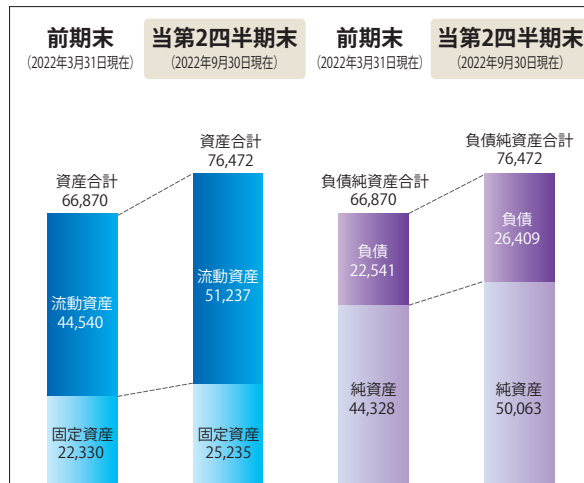
当第2四半期連結累計期間

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)



貸借対照表より

(単位:百万円)

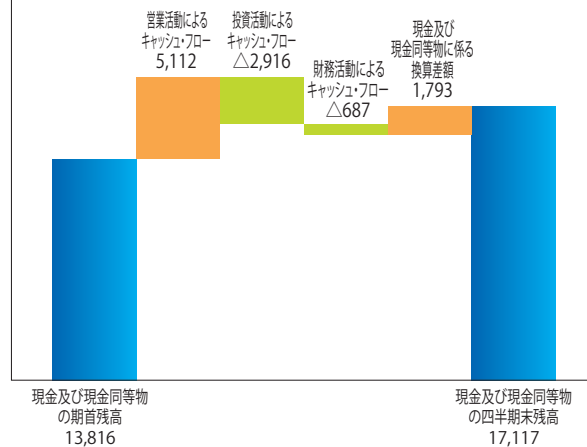


キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間

(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)



会社の概要 (2022年9月30日現在)

商号 株式会社ヨコオ
 本社所在地 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25
 JR神田万世橋ビル14F
 電話: 03-3916-3111
 創業 1922(大正11)年9月1日
 設立 1951(昭和26)年6月14日
 資本金 78億1,912万円
 従業員数 単体 1,053名(前期末比 93名増)
 連結 8,605名(前期末比106名増)

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 23,849,878株
 (自己株式 538,828株を含む)
 株主数 6,271名

■大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,999	17.1
株式会社日本カストディ銀行	2,514	10.7
株式会社群馬銀行	990	4.2
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	815	3.5
ヨコオ取引先持株会	788	3.3
三菱UFJ信託銀行株式会社	595	2.5
JP MORGAN CHASE BANK 380684	512	2.2
第一生命保険株式会社	450	1.9
ヨコオ自社株投資会	447	1.9
株式会社三菱UFJ銀行	446	1.9

※当社は自己株式を538千株保有していますが、上記の大株主からは除外しています。
 ※持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※持株比率は自己株式を除いて算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しています。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
・上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・特別口座から一般口座への振替請求 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・住所・氏名のご変更 ・特別口座の残高照会 ・配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	【手続き用紙のご請求方法】 インターネットからダウンロードください。 https://www.tr.mufig.jp/daikou/

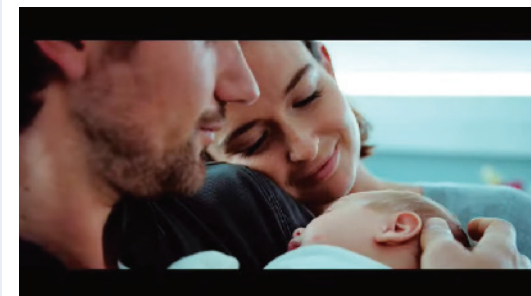
※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

 **YouTube** 右のQRコードから
アクセスできます

<https://www.youtube.com/watch?v=dbtgSJ6iHl0>



100周年記念ブランドムービーを当社公式 YouTube チャンネルに公開しています。ぜひご覧いただき、チャンネル登録もお願いします！



■IRニュースメール配信サービスのご案内

当社では、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様を対象にIRニュースメール配信サービスを提供しています。

決算発表やニュースリリースなどの当社IR情報について、ご登録いただいた皆様に電子メールでお知らせするサービスとなっております。

当社HPから簡単に登録できますので、お気軽にご登録ください！

◆IRニュースメール配信サービス



<https://www.yokowo.co.jp/ir/magazine/>

株式会社 ヨコオ

株主名簿管理人
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話：0120-232-711 (通話料無料)

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

